

過疎化と地域経済

福島県・福島県立福島高等学校 1年 武藤 由奏

大都市へ人口が集中する一方で、人口の減少と経済活動の衰退によって地域社会を維持することが難しくなっている地域……いわゆる過疎地域は日本では山間部や離島に多く見られ、その面積は日本の54%を占めています。しかし、過疎地域に住む人口は日本の全人口の8～9%しか満たしていません。¹⁾ 過疎地域では、若い人や働き盛りの人が少なく、人口の高齢化が進んでいます。過疎化によって、児童や生徒の減少に伴い、学校が統廃合されたり、複式学級として授業を行ったりしています。また、病院などの公共施設が成り立たなかったり、バスや鉄道などの交通機関も次々と廃止され、自動車の依存が高まっています。これらのように、過疎地域は交通などの面で不便になっています。そのため、若い人は都市部へ住むようになり、地域の高齢化はますます進みます。

過疎地域を経済面から見ると、高齢化と交通機関の廃止に伴い、買い物に行くのが不便な状態にあるため、街中の商店街の店の多くが閉店しており、経済が振わない状況にあります。そのため、買い物は若い人や働いている人が町の郊外や近隣の市内にあるスーパーマーケットなどで買い物を済ませてくることが多いのです。こうしたことから、過疎地域では、悪循環が起きているのです。

私が今まで述べてきたようなことを断言できるのは、私自身が過疎地域に住んでいるため、過疎によって生活が不便になっていくことや、地域経済が衰退していく様子を身をもって実感しているからです。私が住んでいる町は、古くは元禄の時代から絹の産地として知れ渡り、明治時代には日本銀行の福島出張所が開設されました。その後、絹（反物）の生産本数が日本一になりました。私は、1年先まで予約でうまっていたと聞いたことがあります。絹の生産のおかげで、経済は発展しており、街中には映画館があったり、サーカスが来ていたそうです。その頃の労働の話を見ると、労働条件は厳しかったそうですが、旅行など楽しみも持っていたようです。私は、その頃が見てみたいと思いました。しかし、昭和40年代以降、貿易摩擦や他国からの安価な製品の影響で、町の繊維業界は苦境に直面していきました。鉄道も廃止されました。そして現在、町内の機業所はそう多くはありません。機業所の方は昨年起きた世界的な大不況で頭を悩ませていると聞きました。長い間、絹の町、みちのくのシルクロードと言われて栄えてきた町は今は名ばかりで、衰退してしまったと思います。私は、近隣の市内の高校に通っていますが、バスは本数が少なく、そのうえ値段も高いので、親に15分かけて車で一番近くの駅まで送ってもらい、車、電車、自転車を乗

り継いで通学しています。自力で通学できないということが一番申し訳なく感じています。

そして、私も町を離れて近隣の市や仙台や東京などの都市に出ていく若者の一人になる可能性は非常に大きいです。高校には家から通えても、家から通える大学という、ごくわずかになってしまい、家を離れ、一人暮らしをしなければならないケースが多いのです。

「町が過疎化していくのは悲しいし、どうにかくい止めたいけれど、今の自分のためには、便利さや自分の利益を優先するしかない……。」

というのが私の本音です。

過疎化はやむをえないことなのでしょう。地域を活性化する方法はないのでしょうか。

近年、地域社会を活性化するために行われていることが、町おこし・村おこしといった取り組みです。観光事業をおこして都市部から観光客を招き、地元の職場を増やす努力をしているところもあります。また、廃校となった校舎を利用して山村留学を企画するなど、それぞれの地域で、さまざまな取り組みが行われています。

私が住む町でも、町おこしの事業が行われています。「川俣シャモ」という地鶏^{じどり}を育てて、町内の食堂が商品化したり、レトルトのカレーや鍋^{なべ}のスープを作って販売したり、毎年参加者を募って日本一長い焼鶏を焼いて、記録更新に挑戦しています。また、「folklore」という中南米のペルーやボリビアの民族音楽の町としても有名で、小学生に、「ケーナ」という楽器を配ったり、秋には、「コスキン・エン・ハポン」という音楽の祭を町あげて盛大に行って、他県や外国からも観光客や参加者が訪れて、大いに盛り上がります。

こうした、町おこしを行っているからか、過疎化が進んでいるとはいえども、ある程度の人口は確保されていると思います。私は、

「川俣って、町？ 村？ 山ってイメージなんだけど……。」

「川俣ってどこにあるの？」

とよく言われます。少し前の私は、

「山だよ。」

と答えていました。しかし、今は、

「山は多いけれど、名産品も多いし、いいところだよ。」

と言います。そう言えるのも、私が町を好きで、「過疎」という問題に直面していることを実感して、町を見つめ直したからだと思います。

多くの地域が「過疎」に直面し、地域経済が衰退しつつある今、これからの明日を担う私たちが自分のふるさを見つめ直すところから始めるべきだと考えます。大学通学などで一度、地元を離れる時期はあっても、できるだけ地元に戻ってきて、過疎化による悪循環を少しでも良い方向へ変えられるようになればいいと思います。

今後の地域経済は、私たちの手にかかっていると言っても過言ではないのではないのでしょうか。

事務局注 1) 「過疎地域自立促進特別措置法の概要（平成12年度～平成21年度）」、総務省